

# 保険・年金 フォーカス

## ドイツの生命保険監督を巡る動向(1) —BaFin の 2022 年 Annual Report より スポットライト等からの抜粋報告—

保険研究部 研究理事 中村 亮一  
TEL: (03)3512-1777 E-mail: [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

ドイツの生命保険会社の状況や業界が抱える課題及びこれらの課題に対するドイツの保険監督官庁である BaFin (Bundesanstalt für Finanzdienstleistungsaufsicht : 連邦金融監督庁) の考え方等についてはこれまででもいくつかのレポートで報告してきた。

昨年度は、BaFin の 2021 年の Annual Report 等に基づいて、ドイツの生命保険業界の監督に関する低金利環境、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)、サステナブルファイナンス、デジタル化、消費者保護といったトピック及びそれらのトピックに関連する最近の状況、さらにはドイツの生命保険会社の監督及び業績等の状況について、2 回のレポートで報告した。

今回は BaFin の 2022 年の Annual Report<sup>1</sup>等に基づいて、ドイツの生命保険業界の監督に関する、低金利からのトレンド転換、サイバーリスク、デジタル化、消費者保護、サステナブルファイナンス、といったトピック及びそれらのトピックに関連する最近の状況、さらにはドイツの生命保険会社の監督及び業績等の状況について報告する。

まずは、今回は、2022 年の Annual Report の「I. スポットライト (Spotlights)」や「II. 戦略、方針、管理」の章に記載されている項目の中から、主として生命保険の監督に関するトピックの内容及びそれらのトピックに関連する最近の状況について報告する。

### 2—2022 年のスポットライト

ここでは、BaFin が 2022 年の Annual Report の「I.1.監督の主要分野」に掲げている項目のうち、「1.1.低金利からのトレンド転換」、「1.2.不動産市場の調整によるリスク」、「1.3.国際金融市場の大幅な調整によるリスク」、「1.4.コーポレートローンの債務不履行によるリスク」、「1.5.サイバーリスク」、「1.7.進行中のデジタル化によるリスク」、「1.8.サステナビリティリスク」の 7 つの項目について、主

<sup>1</sup> 英語版 : [https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/Jahresbericht/jahresbericht\\_node\\_en.html](https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/Jahresbericht/jahresbericht_node_en.html)

として生命保険に関係する内容を中心に、**Annual Report** から抜粋して報告する。併せて、これらのトピックに関連する最近の状況についても報告する。なお、ここで掲げた全ての項目は、保険会社だけでなく、銀行や証券会社等を含めた金融機関全体に共通する問題である。

BaFin は、2022 年 3 月 2 日に初めて発行した「**Risks in BaFin's Focus 2022**」<sup>2</sup>において、ドイツの金融システムの健全性と安定性に最大の潜在的脅威をもたらすリスクと、リスクベースの監督アプローチに沿って、特に注意が必要なリスクを概説している。また、将来の主要なリスクとトレンドについても言及している。具体的には、6 つの主要なリスクとして、①低金利からのトレンド転換、②不動産市場の調整によるリスク、③国際金融市場の大幅な調整によるリスク、④コーポレートローンの債務不履行リスク、⑤サイバーリスク、⑥不適切なマネーロンダリング、を挙げている。さらに、BaFin は、この報告書の中で、これらのリスクを可能な限り抑えるために何をしているのか、言及されたトレンドにどのように対処しているのか、を説明している。

## 1 | 低金利からのトレンド転換

2022 年当初は、金利がその後も超低水準で推移するのか、金利ショックが重大なリスクにつながるのかは不透明だったが、その数カ月後に状況は明らかになり、金利が急速に反転してきている。

BaFin は、「**Risks in BaFin's Focus 2022**」の中で、低金利環境と急激な金利上昇の両方の結果について警告していた。

BaFin は長年にわたり、低金利時代に特に大きな打撃を受けた生命保険会社と年金基金を監視してきたが、金利のトレンド転換により、2022 年にはこれらのグループのポジションが改善した。金利上昇のおかげで、全ての生命保険会社は 2022 年第二四半期と第三四半期に、2016 年以来初めて移行措置を利用することなく、ソルベンシー II の下でのソルベンシー資本要件を満たした。

また、2022 年の予測演習は、保険契約の解約が生命保険会社に及ぼす影響などの現在の課題に焦点を当てた。金利が上昇するにつれて、生命保険会社が直面するリスクは、特に一時払保険契約の場合には、既契約の解約が増加したり、新契約が低迷したりすることにある。高インフレは、解約リスクをさらに増大させることになる。

BaFin の保険・年金基金監督の最高責任者である Frank Grund 博士は、2022 年 9 月 1 日の講演<sup>3</sup>で、金利のトレンド転換が保険会社に与える双方向の影響について述べ、保険会社は収益性を向上させることができるが、一方で損害保険会社は請求費用の増加に直面するという、インフレと金利の密接な関係について言及し、BaFin はこの傾向を注視していくと述べた。

### (参考)生命保険契約の保証水準(2020 年 Annual Report より)

BaFin は 2020 年に、新契約に金利リスクがどの程度含まれているかを調査し、2020 年の Annual Report で報告した。その内容を再掲すると、以下の通りとなっていた。

- ・長期貯蓄商品は、保険期間中に支払われる保険料ベースで、新契約の 75.7%を占める。

<sup>2</sup> 独語のみ：[https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Fokusrisiken/2022\\_Fokusrisiken.html?nn=7846960](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Fokusrisiken/2022_Fokusrisiken.html?nn=7846960)  
因みに、2023 年版も公表されており、これは英語版がある。

[BaFin - Publications & data - Risks in BaFin's Focus 2023](#)

<sup>3</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/RedenInterviews/re\\_220901\\_Rede\\_Meyerthole\\_Siems\\_Kohl\\_russ\\_EDVA.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/RedenInterviews/re_220901_Rede_Meyerthole_Siems_Kohl_russ_EDVA.html)

この長期貯蓄商品のうち、年金保険の割合が 90.9%、その中で 12.6%はユニットリンク型年金保険、40.4%は従来型とユニットリンク型のハイブリッド型年金保険だった。

- ・ 2024 年までに、年金保険新契約におけるハイブリッド型商品のシェアはほぼ 50%まで拡大すると予想されていた。
- ・ 全ての生命保険会社の全ての保証付貯蓄商品の保証利率の中央値は、据置期間中が 0.68%、支払段階では 0.77%だった。

## 2 | 不動産市場の調整によるリスク

BaFin は、不動産市場の調整によるリスクを注視しており、2022 年 2 月 1 日に、国内エクスポージャーのリスクアセットに対するカウンターシクリカル資本バッファーをゼロから 0.75%に引き上げた。さらに、住宅不動産を担保とする国内融資のリスクアセットに対するセクター別システムリスクバッファーを 2%にし、2023 年 2 月 1 日時点で追加資本規制を完全に満たすことを求めた。

## 3 | 国際金融市場の大幅な調整によるリスク

BaFin は、2022 年も国際金融市場の大幅な調整によるリスクに焦点を当てた。これらには、年間を通じて国際商品市場で顕在化したリスクが含まれる。

また、ノンバンク金融機関 (NBFI) セクターのリスクが世界的に高まっていることを考慮して、監督対象の信用機関のシャドバンクへのエクスポージャーを注視した。この分野で得られた洞察は、信用機関のエクスポージャーに関するより集中的なレビューの基礎として利用されている。

## 4 | コーポレートローンの債務不履行リスク

BaFin は、不確実な経済・地政学的状況を考慮して、ローンの債務不履行には注意が必要と述べている。

また、ウクライナにおける戦争がドイツ経済に与える影響について、各金融機関が信用リスクをどのように処理しているか、十分な貸倒引当金を認識しているかどうかを調査している。

## 5 | サイバーリスク

2022 年末までに、ドイツの金融セクターで観測された成功したサイバー攻撃、特に深刻な結果をもたらしたサイバー攻撃の数は、有意ではなかったが、サイバーリスクは増加することが予想されている。

BaFin は、これらを抑制するために、2022 年に信用機関や他の金融セクターの企業に対する IT 検査を強化した。この検査では、主に、監督上の IT 要件 (BAIT、VAIT、ZAIT)<sup>4</sup>が運用レベルでどの程度実装されているかに焦点が当てられた。検査の目的の 1 つは、個々の企業における重要な弱点を特定することであった。さらに、BaFin は、異なる機関やセクターで再発する欠陥を特定したいと考えており、銀行に加えて、保険会社、投資サービスプロバイダー、決済機関にも焦点を当てた。

BaFin によると、金融機関が、極めて細分化されたバリューチェーンに沿って、外注先のリスクを管理することができているかどうか、という問題意識を有している。

BaFin は、IT 検査から得られた洞察を利用して、実際の業務で重点を置く分野を特定した。監督当局の主な目標は、監督対象機関の業務上のレジリエンスを確保し、BaFin の要件に対する機関及び企業の認識

<sup>4</sup> BAIT は金融機関、VAIT は保険、ZAIT は決済・サービス機関に対する IT の監督要件。

を高めることにある。

## 6 | 進行中のデジタル化によるリスク

BaFin は、2022 年にデジタル化によってもたらされる将来のリスクを詳細に調査した<sup>5</sup>。

BaFin は、保険分野における機械学習 (ML) と人工知能 (AI) の実務的応用について、8 つのワークショップを開催し、これらのワークショップを通じて保険会社からの活用事例を収集し、進展の状況とスピードの概要を把握した。議題は、保険会社のリスクモデルだけでなく、バリューチェーン全体における ML と AI の活用についてであり、主な焦点は、ビジネス組織、消費者保護、IT インフラに関する問題に当てられた。保険監督当局は現在、ワークショップからの洞察を利用して検査方針を策定している。

## 7 | サステナビリティリスク

BaFin の意見では、金融セクターの会社と BaFin 自身は、持続可能性の問題とそれに起因するリスクを注意深く見ていく必要がある。

BaFin の Mark Branson 長官は、2022 年 9 月 13 日にベルリンで開催された BaFin の第 2 回サステナブルファイナンス会議<sup>6</sup>の基調講演<sup>7</sup>で、この問題の複雑さについて語り、持続可能性は企業と消費者の両方に影響を及ぼすと述べた。

これは、特にグリーンウォッシングの問題に当てはまる。Mark Branson 長官は、「シンプルなラベルだけで世界をより良い場所にできると信じることは、良いことのように思えるかもしれない。しかし、監督上の観点からは、透明性、特定の商品における持続可能な資産の最低額に関する明確な基準と、市場主導で様々な種類のサステナブルファイナンス商品を選択することが、投資家の好みに対応するためのより良い方法である。」と述べた。投資家は、何を「グリーン」と定義するかを自ら決定することが許されなければならない。

この背景には、2022 年 8 月から、投資商品の提供者は、相談プロセスの一環として、消費者の持続可能性に関する選好について質問することが義務付けられたことがある。しかし、投資家は、投資商品の内容や目的を知っていなければ、意識的かつ十分な情報に基づいて投資商品を決定することができない。つまり、商品には適切なラベルが貼られなければならない。

規制上の不確実性が残っているにもかかわらず、BaFin の行政実務は、ドイツのリテールファンドの規則が一定の最低要件を満たしていない場合、「持続可能」と表示することが許可されないように保証するのに役立っている。2021 年 8 月から 2022 年末までの間に、BaFin は 150 以上のドイツのリテールファンドのファンド規則を承認し、これらのファンドが管理実務で定義された持続可能な投資基準を満たしていることを確認した。これらのファンドは、BaFin の新しい透明性基準と持続可能な商品内容に関する規則を全て満たしていることを BaFin に証明する必要があった。BaFin によるこの行動は、グリーンウォッシングに対抗し、持続可能性に関する透明性を確保することによって投資家の責任を促している。

<sup>5</sup> これについては、先の「Risks in BaFin's Focus 2022」で報告されている。

<sup>6</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veranstaltungen/DE/220913\\_sustainable\\_finance\\_2022.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veranstaltungen/DE/220913_sustainable_finance_2022.html)

<sup>7</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/RedenInterviews/re\\_220913\\_rede\\_sustainable\\_finance\\_p.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/RedenInterviews/re_220913_rede_sustainable_finance_p.html)

### 3—監督実務の主要分野

ここでは、BaFin が 2022 年の Annual Report の「I.2.監督業務の主要分野」に掲げている項目のうち「3.ガイダンス通知：生命保険における顧客利益」について、Annual Report から抜粋して報告する。

生命保険の貯蓄性商品は、顧客に適切な金銭的価値を提供するものであり、その販売における利益相反を回避する必要がある。これらの目的を確保するため、BaFin は 2022 年 10 月末に「貯蓄性商品に係る業務監督の実施態様に関するガイダンス通知」に関する協議プロセスを開始した。

Frank Grund 博士は、「生命保険の貯蓄性商品は、多くの場合、保険契約が一定期間維持されなければ、顧客にとって経済的に意味をなさない。」「このため、保険会社が商品開発プロセスにおいて消費者保護要件を極めて真剣に受け止めることがさらに重要である。」「これは、特に商品の金銭的価値や顧客に提供する利益に適用される。」と述べている。

Frank Grund 博士は、不適切に高いコストは金銭的価値を低下させると強調し、請求可能なコストの大きさを規制する法的規制がないのは事実だと述べた。行動の法的規則は、生命保険会社に、商品の承認プロセスの一環として商品を実際設計する際に、適切な価格性能比（price-performance ratio）を達成することに注意を払うことを要求している。

Frank Grund 博士は、もう一つの重要な点として、「高い販売報酬は、販売時点での不適切なインセンティブにもつながる可能性がある。言い換えれば、保険契約者への自由な情報やアドバイスの提供と矛盾する可能性がある。」と述べた。

協議文書案は、主に商品の監督承認プロセスに焦点を当てている。その目的は、保険会社がその商品が意図された金銭的価値を提供することを保証し、そのために法律で要求されるプロセスを確立することにある。保険会社は、商品テスト中にこれを満たしていることを確認しなければならない。

協議文書案に示された販売報酬要件は、不適切なインセンティブを回避するように設計されている。

BaFin は草案の中で、リスクベースの監督アプローチについても説明している。この考え方に沿って、BaFin は貯蓄性商品の利回り低下が特に大きい保険会社を詳細に調査する。また、保険仲介費用が異常に高い保険会社を詳細に調査する。ここでの主な焦点は、新契約獲得手数料の高さにある。

なお、BaFin は、この協議文書に対する意見を踏まえて、2023 年 5 月 8 日（英語版は 6 月 14 日）に、最終的な「貯蓄性商品に係る業務監督の実施態様に関するガイダンス通知」を発行している<sup>8</sup>。

### 4—BaFin の戦略、方針、管理

ここでは、BaFin が 2022 年の Annual Report の「II.戦略、方針、管理」に掲げている項目のうち「3. サステナブルファイナンス」、「4. BaFin の国際的役割」について、主として生命保険に関する内容を中心に、Annual Report から抜粋して報告する。

#### 1 | サステナブルファイナンス

<sup>8</sup> 独語版：[BaFin - Merkblätter - Merkblatt 01/2023 \(VA\) zu wohlverhaltensaufsichtlichen Aspekten bei ...](#)  
英語版：[BaFin - Guidance Notices - Guidance Notice 01/2023 \(VA\) on Aspects of Conduct of Business ...](#)

サステナビリティとサステナブルファイナンスは、BaFin の 10 年間の中期目標の 1 つで、サステナブルファイナンスは、ドイツ国内外で深く議論されている分野横断的なトピックである。BaFin は、2021 年末にサステナブルファイナンスセンター (Zentrum Sustainable Finance: ZSF) を設立している。ZSF は、BaFin 内の包括的なレベルで戦略的な問題を調整し、各セクターと協力して、金融セクターにおける持続可能性に関する BaFin の立場を発展させている。

ZSF は、BaFin の中央イベント管理部門とともに、2022 年 9 月に「サステナブルファイナンスー新しい EU 基準、リスク管理、監督慣行」と題する第 2 回目のサステナブルファイナンス会議を開催した。約 1,000 人の参加者は、この機会を利用して、EU の持続可能な財務情報開示規則や企業のリスク管理システムにおけるサステナビリティリスクへの対応などのトピックに関する情報を入手した。

BaFin は、各種の規制イニシアティブへの参加を通じて、それらの検討に貢献している。

## 2 | BaFin の国際的役割

BaFin は、各国の監督当局と緊密に連携している。この協力の正式な基盤は、一般的に、BaFin とパートナー機関との間の二国間及び多国間の覚書 (MoU) で構成されている。

EU 内では、国境を越えた協力は主に欧州の監督機関の傘下で行われる。BaFin はまた、世界的な基準設定機関にも参加している。

### (1) IMF による FSAP

2021 年と 2022 年に行われた IMF (国際通貨基金) による FSAP (金融セクター評価プログラム) の評価において、多くの勧告を受けた。勧告は多くの監督分野に関連しているが、例えば、「銀行は気候リスクの評価、融資基準のモニタリング、不動産分野におけるデータ収集のための分析能力を拡大すべきである。」「保険に関しては、流動性管理報告義務を強化し、立入検査の頻度を見直すべきである。」というものだった。

BaFin は、一般的に IMF の勧告を実施しており、これは、関与する責任分野に応じて、単独で実施されるか、又は他の責任主体と協力して実施される。

### (2) EIOPA

2022 年、EIOPA (欧州保険年金監督局) は、インフレ<sup>9</sup>、保険商品の除外<sup>10</sup>、非肯定的なサイバーエクスポージャー<sup>11</sup>及びランオフ事業の監督<sup>12</sup>に関する監督声明を発表した。また、契約境界に関するガイドライン<sup>13</sup>と技術的準備金の評価に関するガイドライン<sup>14</sup>も改訂した。さらに、EIOPA は欧州委員会からの助言要請に応じるため、グリーンウォッシングに関する情報を収集した。加えて、サステナビリティリスクの健全な取扱いに関するディスカッションペーパー<sup>15</sup>を発表し、コメント期間は 2023 年 3 月 5 日に終了している。

<sup>9</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-inflation\\_en?source=search](https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-inflation_en?source=search)

<sup>10</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-exclusions-insurance-products-related-risks-arising-systemic-events\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-exclusions-insurance-products-related-risks-arising-systemic-events_en)

<sup>11</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-management-non-affirmative-cyber-exposures\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-management-non-affirmative-cyber-exposures_en)  
非肯定的なサイバーとは、従来の損害賠償保険契約を引き起こす可能性のある、サイバー危険に起因する未知または定量化されていないエクスポージャーを指している。

<sup>12</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-supervision-run-undertakings\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/publications/supervisory-statement-supervision-run-undertakings_en)

<sup>13</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/revised-guidelines-contract-boundaries\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/publications/revised-guidelines-contract-boundaries_en)

<sup>14</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/publications/revised-guidelines-valuation-technical-provisions\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/publications/revised-guidelines-valuation-technical-provisions_en)

<sup>15</sup> [https://www.eiopa.europa.eu/consultations/discussion-paper-prudential-treatment-sustainability-risks\\_en](https://www.eiopa.europa.eu/consultations/discussion-paper-prudential-treatment-sustainability-risks_en)

### (3) IAIS

2022年、IAIS（保険監督者国際機構）は、保険セクターにおけるシステミックリスクのためのIAISの包括的枠組みがどのように実施されたかを評価した。BaFinは、ベースライン評価と目標を絞った評価を正常に通過した10の監督機関<sup>16</sup>の一つであった。IAISは、FSB（金融安定理事会）が保険セクターにおけるシステミックリスクの監視ツールとして同枠組みを承認するよう勧告した。

ICS（保険資本基準）のモニタリング期間の第3ラウンドが開催された。また、気候変動は2022年もIAISの主要なトピックであり、例えば、気候変動に関連するリスクを評価し、サステナビリティキャパシティを拡大した。

### (4) FSB

2022年、FSBは、特にノンバンク金融仲介業者（NBFI）の規制、デジタルイノベーション、気候変動から生じる金融リスク、中央カウンターパーティー（CCP）のレジリエンスと破綻処理可能性の向上に焦点を当てた。FSBはBaFinの提案に従い、2022年に新たな作業部会を設置することを決定した。その主な任務は、FSBの勧告に従って過去数年間に加盟国の管轄区域で実施された個々の改革の効率性をレビューすることにある。

## 5—まとめ

以上、今回は、BaFinの2022年のAnnual Report等に基づいて、ドイツの生命保険業界の監督に関する、低金利からのトレンド転換、サイバーリスク、デジタル化、消費者保護、サステナブルファイナンス、といったトピック及びそれらのトピックに関連する最近の状況について報告してきた。

Annual Reportについては、過去の結果報告が中心になっている部分が多いが、ドイツの生命保険業界が抱えている各種の重要課題に対する、監督当局であるBaFinのスタンスや考え方、具体的な取組あるいは今後の方針等を窺い知るための有用な情報を提供している。

次回のレポートでは、Annual Reportの「IV. 保険会社及び年金基金の監督」に基づいて、ドイツの生命保険会社の監督及び業績等の状況について報告する。

以上

<sup>16</sup> カナダ、中国、香港、フランス、ドイツ、日本、オランダ、スイス、英国、米国の監督機関が該当している。